

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 56人

② 算数 56人

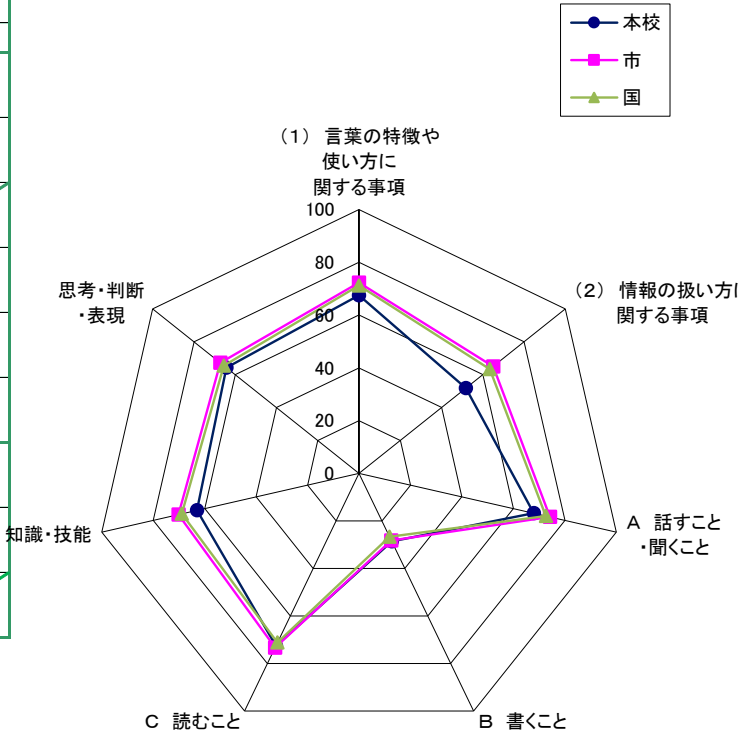
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本北小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況
【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	67.5	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	51.8	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	67.9	74.2	72.6
	B 書くこと	28.6	28.2	26.7
	C 読むこと	72.6	73.3	71.2
観点	知識・技能	63.0	70.2	68.9
	思考・判断・表現	64.3	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



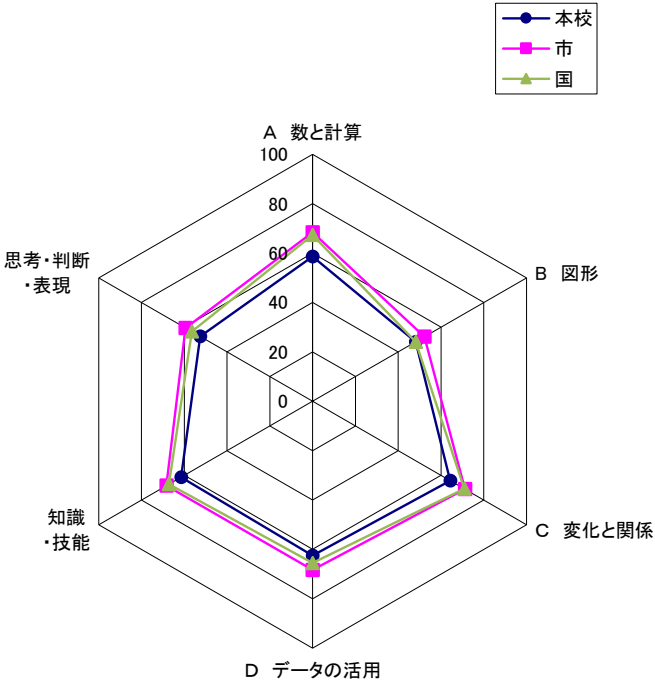
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	●平均正答率は、全国平均を3.7ポイント下回っている。 ●「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」における2つの設問の正答率は、全国平均をそれぞれ1.0ポイント、11.9ポイント下回っている。 ○「送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使う」についての設問の正答率は、全国平均を1.5ポイント上回っている。 ●「日常よく使われる敬語を理解する」についての正答率は、全国平均を7.6ポイント下回っている。 ○「文章の種類とその特徴を理解する」についての正答率は、全国平均を上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・語彙を豊かにするために、授業の中では、語句のまとまりや言葉同士の関係について意識できるような問いかけを行ったり、言葉の意味調べを適宜行ったりすることで、日常生活においても使いこなせる語彙を増やせるようにする。 ・既習した漢字を確実に習得できるように、反復練習や確認テストを定期的実施しながら、定着を図る。 ・文章を書く際は、既習した漢字を確実に使用するとともに、語句のまとまりを意識して考えることで、語句の意味や使い方に対する認識を深め、語彙の質を高められるようにする。 ・日常生活においても時と場に応じた言葉遣いを意識させるとともに、外部講師の授業や来客があった際には、適切に敬語を使用できるように他者と関わる場面と関連させる。
(2) 情報の扱い方に関する事項	●平均正答率は、全国平均を11.6ポイント下回っている。 ●「原因と結果など情報と情報との関係について理解する」についての正答率は、全国平均を7.6ポイント下回っている。 ●「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる」についての正答率は、全国平均を15.6ポイント下回っている。	・文章内容を正確に理解できるように、記述が事実か筆者の考えか、あるいは、原因なのか結果なのかなど、文章全体の構成を捉えながら読み取りの学習を展開する。 ・語句と語句の関係性が分かるように、関係する語句を丸や四角で囲んだり、線で結んだりするなど、図示することで、視覚的に捉えられやすい課題を取り入れる。
A 話すこと・聞くこと	●平均正答率は、全国平均を4.7ポイント下回っている。 ●「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えまとめる」における2つの設問の正答率は、全国平均を下回っている。 ●「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」についての設問の正答率は、全国平均を4.1ポイント下回っている。	・相手の話す内容を正確に捉えらえるように、「話の目的は何か」や「周囲に伝えたいことは何か」「共に考えたいことは何か」など、聞き取る上で必要な観点を意識させる。 ・自分の考えを整理し、まとめる手立てとなるように、話し合いの際は、話し手と自分の考えを比較して共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりするように促す。 ・問いに対して自分の意見をまとめたり、学習を振り返って話し合ったりする機会を多く設定し、様々な視点から検討を重ねて自己の考えを広げられるようにする。 ・相手の話を聞く際は、相手の話の目的や意図を捉えながら内容を注意深く聞き取ることを他教科の学習においても指導する。
B 書くこと	○平均正答率は全国平均を1.9ポイント上回っている。 ○「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」についての正答率は、全国平均を1.9ポイント上回っている。	・分かりやすい内容となるように「事柄の順序に沿った構成」や「伝えたい内容を明確にする」、「序論―本論―結論」など、配列を意識させながら筋道を整えて書くように促す。 ・「誰に何を伝えたいか」や「どの資料を使うと目的や意図につながるか」など、中心となる自分の考えを基にした内容となるように目的意識を明確にした課題を取り入れる。 ・目的に応じた内容になっているかを児童自身が考えることができるように、推敲する時間を設けたり、互いの文章を読み合う場を設けたりする。
C 読むこと	○平均正答率は全国平均を1.4ポイント上回っている。 ●「目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける」についての設問の正答率は、全国平均を3.1ポイント下回っている。 ○「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する」についての設問の正答率は、全国平均を4.6ポイント上回っている。 ○「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる」についての設問の正答率は、全国平均を2.7ポイント上回っている。	・本の紹介や読み聞かせなどの機会を設けるとともに、図書室の利用を積極的に行い、本に親しみながら様々な文章にふれる機会を設ける。 ・本文や問題文で内容の要点を押さえ、本文の中から問われている事柄を見つけ出して整理してとくことができるよう、キーワードに印を付けるなどの指導を行い、更なる読み取る力の向上を図る。 ・読み取った文章を基にして、その内容を説明したり、読んで考えたことを伝え合ったりする言語活動を取り入れる。

宇都宮市立岡本北小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況
【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	58.6	68.4	67.3
	B 図形	48.2	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	64.3	71.2	70.9
	D データの活用	62.5	68.3	65.5
観点	知識・技能	61.5	68.4	67.2
	思考・判断・表現	52.6	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	●平均正答率は全国平均を8.7ポイント下回っている。 ●「全部の椅子の数を求めるために、50×40の計算をする」についての設問の平均正答率は、全国の平均を12.9ポイント下回っている。 ●「2種類の辞典を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ」についての設問の平均正答率は、全国の平均を11.4ポイント下回っている。 ●「$66 \div 3$の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ」についての設問の平均正答率は、全国の平均を10.1ポイント下回っている。	・朝の学習や家庭学習において、計算ドリルやAIドリルを繰り返して行うことで、基礎的な計算力を高める学習活動を継続する。0のついた計算の仕方など、生活の中で計算力を高める機会を多くもたせる。 ・文章問題に取り組む際の導入において、小さな数を入れて考えその後じっくりと考える時間を設ける。文章の内容を正しく読み取り、立式する力を身に付けられるようにする。また、立式に至るまでの過程を説明できるよう指導する。
B 図形	○平均正答率は全国平均と同じである。 ○「テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小についてわかることを選び、選んだわけを書く」についての設問の平均正答率は、全国の平均を7.8ポイント上回っている。 ●「テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ」についての設問の平均正答率は、全国の平均を4.4ポイント下回っている。 ●「テープを折ったり切ったりしてきた四角形の名前を書く」についての設問の平均正答率は、全国の平均を3.3ポイント下回っている。	・図形の特徴について再度確認する。 ・デジタル教科書を使用して、三角形で見た目の違う形でも、底辺や高さが同じ場合は、面積が同じになることを視覚的に捉えさせる。
C 変化と関係	●平均正答率は全国平均を6.6ポイント下回っている。 ●「示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ」についての設問の平均正答率は、全国の平均を10.3ポイント下回っている。 ●「椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く」についての設問の平均正答率は、全国の平均を7.3ポイント下回っている。 ●「5脚の椅子を重ねたときの高さを求める」についての設問の平均正答率は、全国の平均を6ポイント下回っている。	・伴って変わる2つの量における「基準量」と「比較量」を明確にし、「数量」と「倍」について表に表すことで、関係性を導き出し視覚的に捉えられるように配慮する。 ・児童が学習においてつまづきやすい課題を想定して、関連するプリントを活用して個に応じて取り組める場を設定する。
D データの活用	●平均正答率は全国平均を3.0ポイント下回っている。 ○「二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く」についての設問の平均正答率は、全国の平均を4.5ポイント上回っている。 ●「運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める」と答えた人数に着目して、分かることを書く」についての設問の平均正答率は、全国の平均を7.8ポイント下回っている。 ●「二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ」と答えた人数に着目して、分かることを書く」についての設問の平均正答率は、全国の平均を5.7ポイント下回っている。	・授業者が提示する内容だけでなく、自分たちが集めたデータ表やグラフを用いて分析するなど、児童が自分でデータを整理し、結論までまとめるといった学習を取り入れる。 ・児童が、学習においてつまづきやすい課題を想定し、関連するプリント類やAIドリル等を活用して、個に応じて取り組める場を設定する。

宇都宮市立岡本北小学校 第6学年 児童設問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「将来の夢や目標を持っていますか」の設問に対し、肯定的回答が92.9%と、県や全国の平均を10ポイント近く上回っている。また、「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」への肯定的回答についても、県の平均を5ポイント以上上回っていることから、児童は学校において、安心して自身の夢や目標に向かって努力することができていると考えられる。今後も、児童が安心して生活できる環境を整えていく。

○「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の設問に対し、「ほぼ毎日」「週3回以上」と答えた児童が全体の83.9%で、県の平均を22.2ポイントも上回った。また、94.6%の児童が「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の設問に肯定的回答をしており、児童にとってICTが身近に活用できる媒体であることを示唆している。これは、本校の重点目標の一つである、「一人一台端末、ICTを活用した授業の展開や地域の教育資源や教育力を有効活用した学習指導の充実」に取り組んできた結果であるといえる。

○「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の設問に対し、肯定的回答は82.2%と、県の平均を6.1ポイント上回った。本校の重点目標の一つである、「『宇都宮モデル』を踏まえた授業改善の推進と創意工夫した家庭学習の習慣化」に取り組んできたことにより、家庭での学習習慣が徐々に定着しつつあるのではないかと考えられる。

●「友達関係に満足していますか」という設問に対しての肯定的回答は76.8%であり、県の平均を15.1ポイント下回った。また、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の設問に対しては肯定的回答82.2%で、県平均を5.9ポイント下回り、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の設問の肯定的回答は89.3%で、県平均を4.4ポイント下回った。自分自身の夢や目標のことや、学校にいる大人との関係は良好だが、友達とのかかわり方で不安を抱える児童が少なからず見受けられる。より一層、児童の悩みや不安に寄り添えるような指導を心掛けていきたい。

●「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の設問に対しての肯定的回答は10ポイント、「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていますか」の肯定的回答は10.7ポイント、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の肯定的回答は12.7ポイント県の平均を下回っており、主体的・対話的な学びについての項目において、顕著な傾向が見られた。本校の重点目標の一つである、「言語活動の一層の充実により対話的な活動へと発展させる協働的な態度の育成」を達成するため、授業などを通して、児童の考える力、まとめる力を育てられる手立てを工夫していきたい。

宇都宮市立岡本北小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「宇都宮モデル」を踏まえた授業改善の推進と創意工夫した家庭学習の習慣化	「宇都宮モデル」を意識した授業を構成するとともに、「授業改善チェックリスト」を定期的に活用し、授業力と学級経営力の向上を図っている。 家庭学習を必須の課題と自主学習の二本立てとし、基本的な学力の定着と家庭学習の習慣化、学習意欲の向上を図れるようにしている。	基本的な学習内容の定着に課題が見られる。「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」への肯定的回答の割合は、県や国の平均を大きく下回っている。児童が主体的に学びを進められるような課題設定や、課題解決に向けた支援の在り方等の工夫・改善が必要であると考えられる。 「家で計画を立てて勉強している」への肯定的回答の割合や、平日、休日の家庭学習時間については、県や国の平均を上回っている。児童の家庭学習への意欲が向上している様子がうかがえる。
言語活動の一層の充実により対話的な活動へと発展させる協働的な態度の育成	児童が主体的に取り組める課題を設定し、各教科のねらいを達成に向けて、グループや学級全体での協働的な話し合いを取り入れた授業づくりを進めている。 振り返りの時間を充実させ、学習を自己調整し、学びを次の学習に繋げ、生かすことのできる児童の育成に努めている。	「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりする」「自分の考えをまとめる活動を行っていた」などへの肯定的回答の割合は、県や国の平均を大きく下回っている。児童の実態に即した効果的な言語活動の工夫や支援が必要であると考えられる。 学習の振り返りに関連する「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」への肯定的回答の割合は、県や国の平均を大きく下回っており、振り返りの時間をより一層充実させる必要があると考えられる。
1人1台端末、ICTを活用した授業の展開や地域の教育資源や教育力を有効活用した学習指導の充実	タブレット端末の日常的な利用を推進し、活用方法についての情報交換と改善を図りながら、児童の学びの充実に生かせるようにしている。	「PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか」の設問では、毎日、または週3回以上と答えた割合が83.9%で、県や国の平均を大きく上回っている。授業時間以外の学習における使用時間についての設問でも、県や国の平均より長めに使用している傾向が見られた。タブレット端末の利用頻度が多くなったことで、活用するよさが定着している様子がうかがえる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
各教科における基本的な知識・技能の定着と個別の支援の工夫	学習内容の定着を図る復習の充実と、授業における学習支援の工夫	授業や単元における振り返りの時間を充実させるとともに、知識・技能を定着させるための復習の時間を確保する。 一斉指導における支援と個別の支援の双方を充実させ、どの子にも「分かる」「できる」実感がもてる授業づくりに努める。